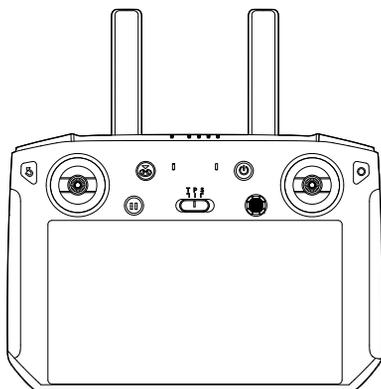


# DJI スマート送信機

ユーザーマニュアル v1.4

2020.06



## キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索して、トピックを見つけます。Adobe Acrobat Readerで本書を閲覧している場合は、WindowsではCtrl+F、MacではCommand+Fを押すことで検索を開始できます。

## トピックへの移動

目次のトピック一覧をご覧ください。トピックをクリックすると、そのセクションに移動できます。

## 本書の印刷

本書は高解像度での印刷に対応しています。

# 本マニュアルの使用方法

## 凡例

⊘ 警告

⚠ 重要

💡 ヒントとコツ

📖 説明

## チュートリアルビデオ

以下のリンクよりチュートリアルビデオをご覧ください。本製品を安全にお使いいただく方法をご案内しています。

<https://www.dji.com/smart-controller?site=brandsite&from=nav>

## DJI™ ASSISTANT™ 2のダウンロード

<http://www.dji.com/dji-smart-controller>からDJI Assistant 2をダウンロードしてください。



# 目次

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| 本マニュアルの使用方法                       | 1  |
| 凡例                                | 1  |
| チュートリアルビデオ                        | 1  |
| DJI™ ASSISTANT™ 2のダウンロード          | 1  |
| 製品の特徴                             | 3  |
| はじめに                              | 3  |
| 概要                                | 4  |
| スマート送信機の準備                        | 6  |
| バッテリーの充電                          | 6  |
| コントロールスティックの取り付け                  | 6  |
| スマート送信機の操作                        | 7  |
| スマート送信機の電源オン/オフ                   | 7  |
| スマート送信機のアクティベーション                 | 7  |
| スマート送信機のリンク                       | 8  |
| 機体の制御                             | 8  |
| カメラの操作                            | 12 |
| デュアル送信機モード                        | 13 |
| インターフェースの表示                       | 14 |
| ホームページ                            | 14 |
| クイック設定                            | 15 |
| DJI GO 4/DJI Pilot アプリ            | 16 |
| 付録                                | 17 |
| 写真や動画の保存場所の変更                     | 17 |
| コントロールスティックナビゲーション                | 17 |
| DJI GO Share (DJI GO 4を使用中にのみ利用可) | 17 |
| ステータスLEDとバッテリー残量インジケータの説明         | 18 |
| スマート送信機の警告音                       | 19 |
| システムの更新                           | 19 |
| ボタンの組合せ                           | 19 |
| コンパスのキャリブレーション                    | 20 |
| サードパーティからの通知のブロック                 | 21 |
| HDMI                              | 21 |
| アフターサービス情報                        | 21 |
| 仕様                                | 22 |

# 製品の特徴

## はじめに

DJIスマート送信機は、OCUSYNC™ 2.0テクノロジーを採用し、OcuSync 2.0に対応する機体と互換性があります。さまざまな機能ボタンを使用して、送信機は様々なタスクを実行でき、最大8kmの範囲内で機体を制御できます。（日本国内は4 km）デュアル伝送周波数の搭載により、HDビデオダウンリンクの安定性と高い信頼性を実現します。（日本では、2.400-2.4835 GHzのみの使用。）

**超高輝度ディスプレイ：**内蔵の5.5インチスクリーンは、1000cd/m<sup>2</sup>の高輝度と1920×1080ピクセルの解像度を誇ります。

**複数の接続：**スマート送信機は、Wi-FiおよびBluetooth接続に対応しています。

**動画および音声の管理：**スマート送信機にはマイクとスピーカーが内蔵され、H.264およびH.265の両形式で、4K動画を60fpsで表示できます。さらに、HDMIポートを使用して動画を外部モニターに表示することもできます。

**拡張ストレージ機能：**スマート送信機のストレージ容量は、microSDカードを使用して増やすことができます。これにより、ユーザーはより多くの写真や動画を保存でき、簡単にパソコンにエクスポートできます。

**様々な環境下における信頼性：**スマート送信機は、-20℃～40℃の広い温度範囲で正常に動作します。

**より多くのDJI機体に対応：**スマート送信機の機体管理機能に、より多くの機体モデルが追加され、管理できるようになりました。Mavic 2 Pro/Mavic 2 Zoom/Mavic 2 Enterpriseシリーズ/Phantom 4 Pro V2.0に対応。

**DJI Gogglesに対応：**ゴーグル（v01.00.05.00以降）をDJIスマート送信機（v01.00.07.00以降）に接続することで、HDMIでのライブ配信の視聴に対応。USB-Cケーブルを使って、ゴーグルをDJIスマート送信機に接続することで、スマート送信機の画面上にエアユニットのカメラビューを表示させることができます。また、HDMIケーブルを使って、ライブ配信をスマート送信機から他のディスプレイ機器に伝送することができます。

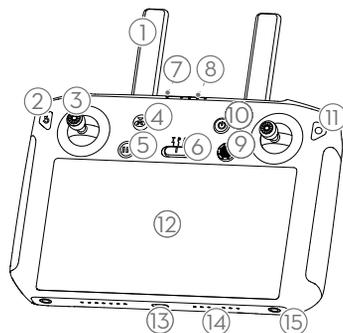
**DJI GO Share：**内蔵のDJI GO 4アプリに追加された最新のDJI GO Share機能により、ユーザーはDJI GO™ 4での再生画面からダウンロードされた写真や動画を、スマートフォンに転送できます。

**SkyTalk：**設定でDJI Labにアクセスして、有効にしてください。SkyTalkを有効にすると、サードパーティー製SNSアプリを経由して、機体からのライブビューを友達とシェアできます。この機能は業務用機体には利用できません。



- 最大飛行時間は、無風環境下で MAVIC™ 2を使用し、25km/hの一定速度で飛ばした際の測定値です。この値は参考値です。
- 対応する機体のモデルを確認するには、仕様を参照してください。
- 地域の法令に準拠するため、一部の国や地域では5.8GHzの周波数は使用できません。
- 4K/60fpsは、10-bit HDR動画以外に対応します。10-bit HDR動画を選択するときは、4k/30 fpsのみが利用可能です。
- スマート送信機をMavic 2 Pro/ZoomやPhantom 4 Pro V2.0にリンクする場合と、Mavic 2 Enterpriseシリーズにリンクする場合の主な違いは、飛行に使用する内蔵アプリです。Mavic 2 Pro/ZoomとPhantom 4 Pro V2.0はDJI GO 4アプリを使用し、Mavic 2 EnterpriseシリーズはDJI Pilotを使用します。このマニュアルの概説は、スマート送信機にリンクする全機体モデルに適用されます。

## 概要

**1 アンテナ**

機体制御と動画信号を送受信します。

**2 戻るボタン／ファンクションボタン**

1回押すと前のページに戻り、2回押すとホームページに戻ります。長押しすると、ボタンの組み合わせの使用ガイドを表示します。詳しくは「ボタンの組み合わせ」のセクションを参照してください。

**3 コントロールスティック**

送信機が機体とリンク時に、機体の向きと動きを制御します。ナビゲーション設定をカスタマイズするには、設定 > コントロールスティックナビゲーションの順に進みます。

**4 RTHボタン**

長押しすると、Return-to-Home (RTH)を開始します。再度押すと、RTHはキャンセルされます。

**5 飛行一時停止ボタン**

1回押すと、タップフライ、アクティブトラック、インテリジェント フライト モードを終了します。

**6 フライトモードスイッチ**

Tモード/Pモード/Sモード間を切り換えます。

**7 ステータスLED**

リンクの状態、コントロールスティック、ローバッテリー残量、および高温に関する警告を示します。

**8 バッテリー残量LED**

送信機のバッテリー残量を表示します。

**9 5Dボタン**

初期状態での設定は以下のとおりです。機能はDJI GO 4/DJI Pilotで設定できます。

上：ジンバルを中央に戻す／ジンバルを下向きにする

下：フォーカススイッチ/測光

左：EV値を減らす

右：EV値を増やす

押す：DJI GO 4やDJI Pilotのインテリジェントフライトモードメニューを開きます (Mavic 2 Enterpriseシリーズでは利用不可)。

Phantom 4 Pro V2.0：この5Dボタンは、DJI GO 4を使用中は利用できません。

送信機が機体にリンクされていないときは、送信機の5Dボタンを使用して操作できます。この機能を有効にするには、設定 > コントロールスティックナビゲーションの順に進みます。

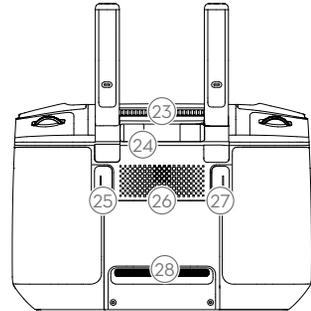
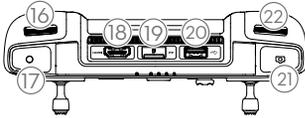
**10 電源ボタン**

送信機の電源のオン/オフに使用します。送信機の電源が入っているときにボタンを押すと、送信機はスリープモードに入る、またはスリープ状態から戻ります。

**11 確認ボタン／カスタムボタンC3\***

送信機が機体にリンクされていない場合は、押して選択を確定します。機体にリンクされているときは、ボタンを使用して選択を確定することはできません。ただし、機体にリンクされているときのボタンの機能は、DJI GO 4/DJI Pilotでカスタマイズで

\* この確認ボタンは、今後のファームウェア更新でカスタマイズできるようになる予定です。



きます。

#### 12 タッチスクリーン

タップして選択します。

#### 13 USB-Cポート

送信機の充電または更新に使用します。

#### 14 マイク

音声を録音します。

#### 15 ねじ穴

#### 16 ジンバルダイヤル

カメラのチルト操作に使用します。

#### 17 録画ボタン

押して動画の録画を開始します。再度押すと録画を停止します。

#### 18 HDMIポート

動画の出力用です。

#### 19 microSDカードスロット

microSDカードの挿入に使用します。

#### 20 USB-Aポート

外部機器を接続するときに使用します。

#### 21 フォーカス/シャッターボタン

半押しでフォーカスを合わせ、次に押して写真を撮ります。

#### 22 カメラ設定ダイヤル

Mavic 2 Pro: ダイヤルを回すと、露出補正（プログラムモード時）、絞り（絞り優先およびマニュアルモード

時）、またはシャッター（シャッター優先モード時）を調整します。

Mavic 2 Zoom/Mavic 2 Enterprise: このダイヤルを回して、Mavic 2 Zoomのカメラのズームを調整します。

Mavic 2 Enterprise Dual: このダイヤルを回して、露出補正を調整します。

Phantom 4 Pro V2.0: カメラのロール操作に使用します。

#### 23 通気口

放熱に使用されます。使用中は通気口をふさがないようにください。

#### 24 スティック格納スロット

1組のコントロールスティックを収納するために使用します。

#### 25 カスタムボタンC2

初期状態の設定は再生です。設定はDJI GO 4/DJI Pilotで変更できます。

#### 26 スピーカー

音声を出力します。

#### 27 カスタムボタンC1

初期状態の設定はセンターフォーカスです。設定はDJI GO 4/DJI Pilotで設定できます。

#### 28 吸気口

放熱に使用されます。使用中は吸気口をふさがないようにください。

# スマート送信機の準備

## バッテリーの充電

送信機には 2500 mAh のリチウムイオン電池が 2 組内蔵されています。USB-C ポートを使って送信機を充電してください。USB-C ポートを使って送信機を充電してください。

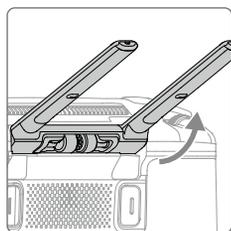
充電時間：2 時間（標準の USB 電源アダプターを使用）



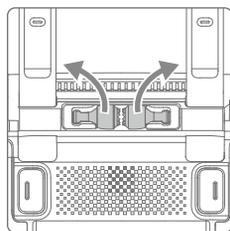
- ⚠
- 送信機を充電するには、DJIの公式USB電源アダプターを使用してください。お持ちでない場合は、定格12V/2AのFCC/CE認証のUSB電源アダプターを推奨します。
  - 長期間保管すると電池が消耗します。過放電を防ぐため、少なくとも3ヶ月に1回はバッテリーを充電してください。

## コントロールスティックの取り付け

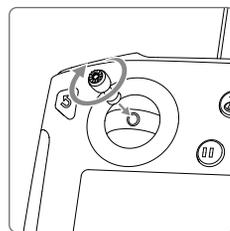
スマート送信機のパッケージには、2 組のコントロールスティックが含まれています。1 組は、送信機背面のスティック収納スロットに収納されています。以下の手順に従って、スティック収納スロットに収納されているコントロールスティックを送信機に取り付けてください。



アンテナを  
持ち上げる



コントロールスティックを取り外す



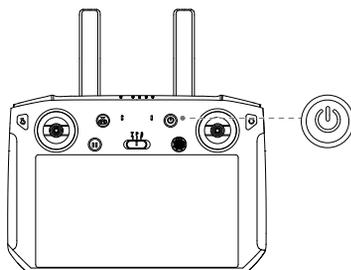
回転させてコントロールスティックを取り付ける

# スマート送信機の操作

## スマート送信機の電源オン／オフ

送信機の電源をオン／オフするには、次の手順に従ってください。

1. 電源ボタンを1回押して、現在のバッテリー残量を確認します。バッテリー残量が低すぎる場合は、送信機を充電します。
2. 電源ボタンを長押しするか、1回押してすぐに長押しすると、送信機の電源をオンになります。
3. 送信機の電源をオフにするには、手順2の操作を再度行ってください。



## スマート送信機のアクティベーション



初めて使用する前にスマート送信機をアクティベーションする必要があります。アクティベーション中に送信機がインターネットに接続できることを確認してください。スマート送信機をアクティベーションするには、以下の手順に従ってください。

1. 送信機の電源を入れます。言語を選択して「次へ」をタップします。利用規約とプライバシーポリシーをよく読み、「同意する」をタップします。確認後、国/地域を設定します。
2. Wi-Fi 経由で送信機をインターネットに接続します。接続したら、「次へ」をタップして続行し、タイムゾーン、日付、時刻を選択します。
3. DJI アカウントでログインします。アカウントをお持ちでない場合は、DJI アカウントを作成してログインしてください。
4. アクティベーションページで「アクティベーション」をタップします。
5. アクティベーションした後、スマート送信機改善プロジェクトに参加するかどうかを選択してください。このプロジェクトは、毎日自動的に診断データと使用状況データを送信することで、ユーザーエクスペリエンスを向上させるのに役立ちます。DJI による個人情報の収集はありません。
6. 送信機がファームウェア更新を確認します。ファームウェア更新が利用できる場合は、最新バージョンをダウンロードするようプロンプトが表示されます。

⚠️ アクティベーションに失敗した場合は、インターネット接続を確認してください。インターネット接続が正常であれば、再試行して送信機をアクティベーションしてください。アクティベーションの失敗が続く場合は DJI にお問い合わせください。

## スマート送信機のリンク

スマート送信機を機体と同時に購入した場合、送信機はすでに機体にリンクされており、送信機と機体をアクティベーションした後、すぐに使用することができます。スマート送信機と機体を別々に購入した場合は、以下の手順に従って送信機を航空機にリンクします。

### 方法 1：スマート送信機ボタンを使用

1. 送信機と機体の電源を入れます。
2. カスタム w ボタン C1、C2、および録画ボタンを同時に押します。ステータス LED が青く点滅し、送信機で 2 回ピープ音が鳴ると、リンクが開始したことを示します。
3. 機体のリンクボタンを押します。リンクが成功すると、送信機のステータス LED は緑色に点灯します。

### 方法 2：DJI GO 4/DJI Pilot を使用

1. 送信機と機体の電源を入れます。ホームページの「Go」をタップし、DJI アカウントを使ってログインします。
2. 「デバイス開始」をタップし、「機体に接続」を選択して、指示に従ってリンクを開始します。
3. 「カメラビューを開始」を選択し、カメラビューで  をタップします。下部までスクロールして「送信機のリンク」をタップし、「OK」をタップして確定します。
4. ステータス LED が青く点滅し、送信機で 2 回ピープ音が鳴ると、リンクが開始したことを示します。
5. 機体のリンクボタンを押します。リンクが正常に完了すると、送信機のステータス LED が緑色に点灯します。

### 方法 3：クイック設定を使用

1. 送信機と機体の電源を入れます。
2. 画面上部から下にスワイプしてクイック設定を開きます。  をタップしてリンクを開始します。
3. ステータス LED が青く点滅し、送信機で 2 回ピープ音が鳴ると、リンクが開始したことを示します。
4. 機体のリンクボタンを押します。リンクが正常に完了すると、送信機のステータス LED が緑色に点灯します。



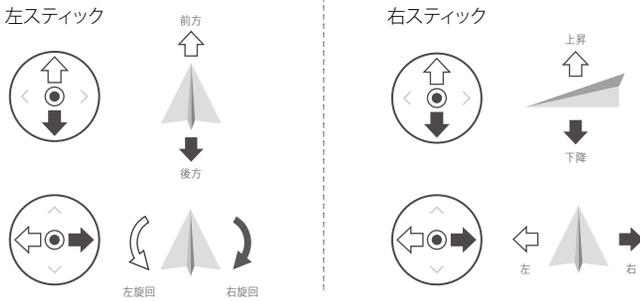
- リンクは、送信機が機体から 0.5m 以内にある状態で行ってください。
- DJI アカウントを使ってログインするときは、送信機がインターネットに接続していることを確認してください。

## 機体の制御

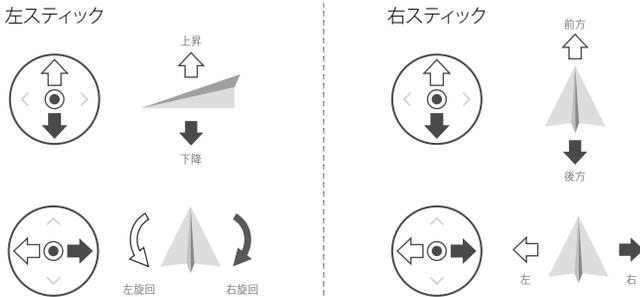
コントロールスティックを使用して、機体の方向（ヨー）、前後の動き（ピッチ）、高度（スロットル）、および左右の動き（ロール）を制御します。コントロールスティックの機能は、コントロールスティックモードによって決まります。あらかじめプログラムされている 3 つのモード（モード 1、モード 2、モード 3）を使用でき、DJI GO 4/DJI Pilot でカスタムモードを設定することもできます。初期状態のモードはモード 2 です。

あらかじめプログラムされているすべての3つのモードでは、両スティックが中央の位置にある時、機体は一定の向きでその場でホバリングします。下図を参照して、あらかじめプログラムされている3つのモードの各コントロールスティックの機能を確認してください。

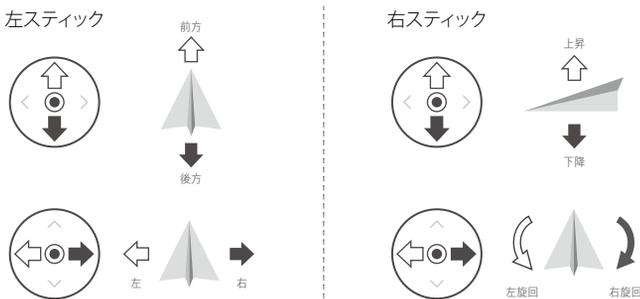
モード1



モード2

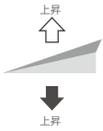
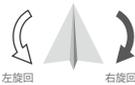


モード3



下図は各コントロールスティックの使用方法を説明しています。例としてモード2を使用しています。

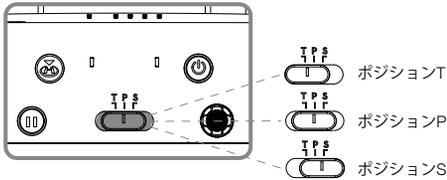
- ☐ 中央位置：コントロールスティックが中央にあります。  
 コントロールスティックを動かす：コントロールスティックを中央位置から遠ざるように倒します。

| コントロールスティックモード2   | 機体  | 備考  |
|---|---|---|
| 左スティック<br>   |    | 左スティックを上下に倒して、機体の高度を変更します。上昇させるにはスティックを上倒し、下降させるには下に倒します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の高度変更速度が速くなります。機体の高度を急激に変えないよう、コントロールスティックは優しくゆっくりと動かしてください。 |
| 左スティック<br>   |    | 左スティックを左右に動かして、機体の進行方向を制御します。スティックを左に倒すと機体は反時計回りに回転し、右に倒すと時計回りに回転します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の回転速度が速くなります。                                    |
| 右スティック<br>   |    | 右スティックを上下に倒すと、機体のピッチが変更されます。スティックを上倒すと前進し、下に倒すと後進します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の移動速度が上がります。   |
| 右スティック<br> |  | 右スティックを左右に倒すと、機体を左右に移動できます。左に倒すと左に飛行し、右に倒すと右に飛行します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の移動速度が上がります。   |

- ⚠
- 送信機が磁気干渉の影響を受けないように、磁性物質から遠ざけてください。
  - コントロールスティックの損傷を避けるため、輸送や保管時には、コントロールスティックを取り外して送信機の収納スロットに入れることをお勧めします。

## フライトモードスイッチ

このスイッチを切り替えて、フライトモードを選択します。Tモード/Pモード/Sモード間を切り換えます。



| 位置 | フライトモード        |
|----|----------------|
| T  | Tモード (トライポッド)  |
| P  | Pモード (ポジショニング) |
| S  | Sモード (スポーツ)    |

**Tモード (トライポッド)：**機体は、GPS とビジョンシステムを利用して自らの位置を把握しながら安定し、障害物を避けて進みます。このモードでは、最大飛行速度が3.6km/hに制限されます。よりなめらかに動きを制御するために、スティックの動きに対する反応性も低下します。

**Pモード (ポジショニング)：**Pモードは、強いGPS信号受信時に最適に動作します。機体は、GPS、ビジョンシステム、赤外線検知システムを使用して、機体の安定化、障害物回避、動く被写体の追尾を行います。このモードでは、タップフライやアクティブトラックなどの高度な機能が利用できます。

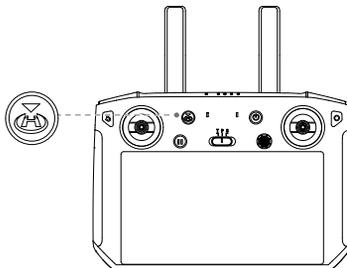
**Sモード (スポーツ)：**機体のゲイン調整を行うことにより、機体の操縦性が高まります。このモードではビジョンシステムは無効になります。

スイッチが送信機のどの位置にあるかに関わらず、機体は初期状態ではPモードで開始します。フライトモードを変更するには、DJI GO 4/DJI Pilot のカメラビューで、をタップして「マルチフライトモード」を有効にします。[マルチフライトモード]を有効化した後、スイッチを[P]、次に[S]または[T]に切り替えてフライトモードを変更します。

 さまざまな種類の機体のフライトモード機能の詳細については、機体のユーザーマニュアルの「フライトモード」のセクションを参照してください。

## RTH ボタン

RTH ボタンを長押しして Return to Home (RTH) を開始すると、機体は最後に記録されたホームポイントに戻ります。もう一度このボタンを押すと、RTHはキャンセルされ、機体を操作できるようになります。RTHの詳細については、機体のユーザーマニュアルの「Return-to-Home」セクションを参照してください。



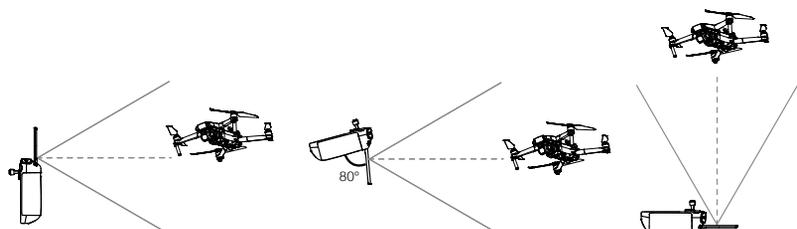
### カスタムボタン

コントローラーには3つのカスタムボタンがあります。C1、C2、および確認ボタンです。送信機が機体にリンクされていない場合は、確認ボタンを押して選択を確定します。送信機が機体にリンクされているときは、ボタンを使用して選択を確定することはできません。ただし、機体にリンクされているときのボタンの機能は、DJI GO 4/DJI Pilot でカスタマイズできます。

C1 および C2 ボタンの機能は、DJI GO 4/DJI Pilot で設定されています。C1 ボタンの初期状態の設定はセンターフォーカスです。C2 ボタンの初期状態の設定は再生です。

### 最適な伝送範囲

スマート送信機の最適な伝送範囲は以下のとおりです。



アンテナが機体の方に向いていることを確認してください。アンテナとスマート送信機の背面との間の角度が80°または180°である場合、送信機と機体間の接続は最適なパフォーマンスを得られます。

上の図は、ユーザーと機体間の実際の距離を表しているわけではなく、参考値です。

- ⚠ 伝送信号が弱い場合、DJI GO 4/DJI Pilot はユーザーに警告します。機体が最適な伝送範囲内にあることを確認するためアンテナを調整します。

## カメラの操作

送信機のフォーカス/シャッターボタンおよび録画ボタンで、動画/写真を撮影します。

#### 1. フォーカス/シャッターボタン

シャッターボタンを押し、写真を撮影します。バースト撮影モードが選択されている場合、ボタンを押し続けると複数の写真が撮影できます。

#### 2. 録画ボタン

1回押すと動画の録画を開始し、もう1回押すと停止します。

#### 3. カメラ設定ダイヤル

Mavic 2 Pro: ダイヤルを回すと、露出補正（プログラムモード時）、絞り（絞り優先およびマニュアルモード時）、またはシャッター（シャッター優先モード時）を調整します。

Mavic 2 Zoom/Mavic 2 Enterprise: このダイヤルを回して、Mavic 2 Zoom のカメラのズームを調整します。

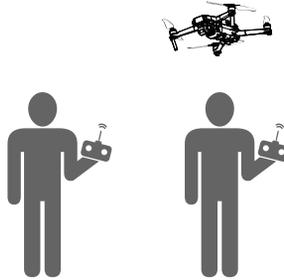
Mavic 2 Enterprise Dual: このダイヤルを回して、露出補正を調整します。

Phantom 4 Pro V2.0: カメラのロール操作に使用します。

## デュアル送信機モード

Mavic 2 Pro/Zoom はデュアル送信機モードをサポートしていますが、Mavic 2 Pro/Zoom ファームウェアバージョン 01.03.0400、DJI GO 4 アプリ v4.0.5 が必要です。デュアル送信機モードでは、同一機体に 2 台の送信機を接続できます。

送信機を機体にリンクすると、マスター送信機もスレーブ送信機も、機体の向き、ジンバルの動き、カメラ操作を制御できます。



マスター送信機とスレーブ送信機の操作上の差異を以下で説明します。

### 1. ジンバルダイヤル

マスター送信機もスレーブ送信機もジンバルダイヤルを制御できますが、マスター送信機に優先権があります。例えば、マスター送信機がジンバルダイヤルを使用している時は、スレーブ送信機でジンバルダイヤルを制御できません。しかし、マスター送信機がジンバルダイヤルの制御を止めて 2 秒経つと、スレーブ送信機でジンバルダイヤルを制御できるようになります。

### 2. コントロールスティック

マスター送信機もスレーブ送信機も、コントロールスティックを使用して機体の向きを制御できます。マスター送信機に優先権があります。マスター送信機がコントロールスティックを操作している時は、スレーブ送信機で機体の向きを制御できません。マスター送信機でコントロールスティックが 2 秒間使用されないと、スレーブ送信機で機体の向きを制御できるようになります。

飛行の安全性を確保するために、スレーブ送信機のスロットルスティックを引き下げる時は、両方のスティックを内側に押し下げてください。マスター送信機が機体を制御している時は、マスター送信機のコントロールスティックが 2 秒間使用されなくても、機体はこのスレーブ送信機のコマンドにตอบสนองしません。

スレーブ送信機で機体を制御できるようにするには、スレーブ送信機のスティックを離す必要があります。

### 3. フライトモードスイッチ

フライトモードの切り替えができるのは、マスター送信機だけです。スレーブ送信機のフライトモードスイッチは無効化されています。

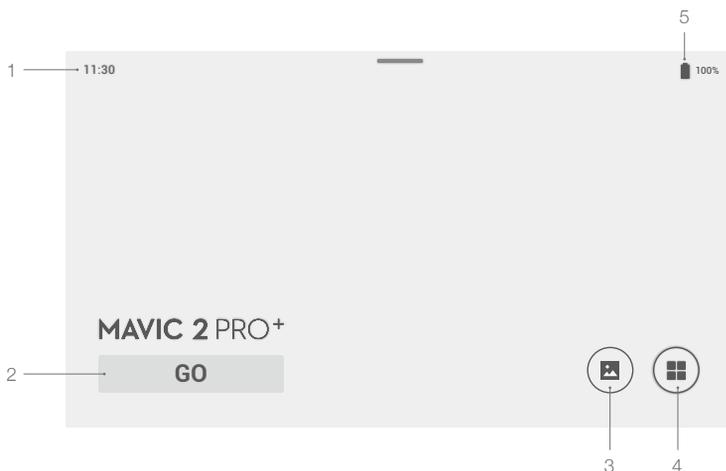
### 4. DJI GO 4 アプリの設定

DJI GO 4 アプリでのディスプレイおよびパラメータの設定方法は、マスター送信機、スレーブ送信機ともに同じです。ただしスレーブ送信機使用時には、フライトコントローラー、ビジョンシステム、ビデオ伝送、インテリジェント・フライト・バッテリー、ジンバルパラメータ以外のセットアップはできません。DJI GO 4 アプリでのディスプレイおよびパラメータの設定方法は、マスター送信機、スレーブ送信機ともに同じです。

# インターフェースの表示

## ホームページ

スマート送信機の電源を入れると、画面にホームページが表示されます。



### 1 時刻

現地時刻を表示します。

### 2 DJI GO 4/DJI Pilot

タップしてDJI GO 4/DJI Pilotを開始します。送信機が機体にリンクされている場合、ボタンは青色です。ユーザーは、DJIアカウントを使用してログインした後、タップしてカメラビューを開始できます。送信機が機体にリンクされていない場合は、タップして、DJIアカウントを使用してログインします。「デバイスを開始」を選択し、画面の指示に従ってカメラビューを開始します。

### 3 ギャラリー

タップして保存した写真や動画を確認します。

### 4 アプリセンター

タップすると、DJI GO 4/DJI Pilot、設定、ファイルマネージャー、ユーザーがダウンロードしてインストールしたサードパーティ製のアプリなど、すべてのアプリを確認できます。詳しくは「アプリセンター」の項を参照してください。

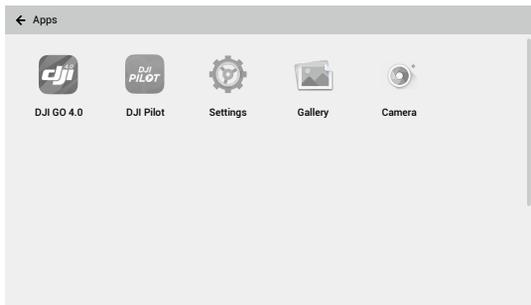
### 5 バッテリー残量

送信機のバッテリー残量を表示します。

- 
- ☀️
- 5Dボタンやコントロールスティックを使用するか、画面をタッチすることにより、送信機で操作します。5Dボタンを押すか、画面をタッチすると、選択を確定します。詳細は「コントロールスティックナビゲーション」のセクションを参照してください。
  - クイックフライは設定で有効にできます。有効にすると、送信機がすでに機体とペアリングされている場合、電源を入れた後に自動的にDJI GO 4でカメラビューが表示されます。この機能は、DJI GO 4を使用中の中のみ、利用できます。
-

## アプリセンター

☰をタップしてアプリセンターを開始します。ユーザーは、ダウンロードされたデフォルトのシステムアプリとサードパーティ製のアプリを確認できます。



アプリセンターは将来変更される可能性があります

アイコンを押してアプリを開始します。

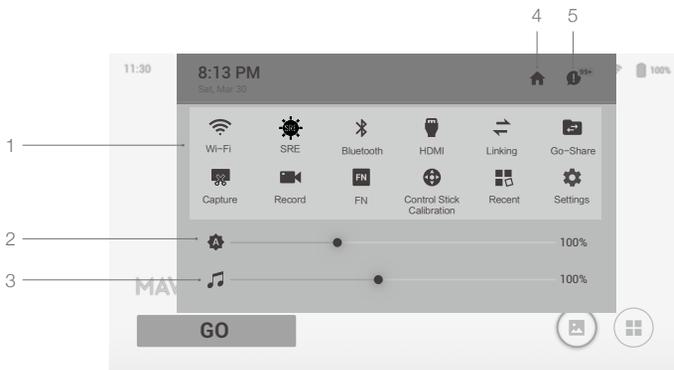
アプリを移動するには、アイコンを押しながらアプリを配置したい場所に移動します。アプリを削除するには、アイコンを押しながらこのページの一番上までドラッグして削除します。デフォルトのシステムアプリは削除できません。

ボタンの組み合わせ、コントロールスティックナビゲーション、日付と時刻、言語、Wi-Fi、Bluetoothなどの設定を行うには設定を押します。

⚠ DJIは、サードパーティ製アプリの安全な使用または互換性対応について一切の責任を負いません。サードパーティ製アプリがスマート送信機の性能に影響を与えている場合は、サードパーティ製アプリを削除するか、スマート送信機を工場出荷時設定にリセットしてください。スマート送信機を出荷時設定にリセットするには、設定にある「工場出荷時データにリセット」に進みます。

## クイック設定

画面上部から下にスワイプしてクイック設定を開きます。



1 アイコンをタップすると、その機能を有効/無効を切り替えます。アイコンを長押しすると、その機能の設定画面に移動します（可能な場合）。

 : タップしてWi-Fiを有効または無効にします。長押しして設定画面に移動し、Wi-Fiネットワークを接続または追加します。

 : タップしてSREモードを有効または無効にします。長押しして設定画面に移動し、SREモードを選択します。

 : タップしてBluetoothを有効または無効にします。長押しして設定画面に移動し、近くのBluetoothデバイスと接続します。

 : タップしてHDMI接続を有効または無効にします。長押しして設定画面に移動し、HDMI解像度、回転、出力モード、および画面ズームを調整します。

 : タップして送信機と機体のリンクを開始します。

 : タップしてDJI GO Shareをアクティベーションします。長押しして設定画面に移動し、GO Share ホットスポットを設定します。詳しくは「DJI GO Share」のセクションを参照してください。

 : タップして画面のスクリーンショットを撮ります。

 : タップして画面収録を開始します。収録中は、画面に記録時間が表示されます。記録を停止するには、「停止」をタップします。

 FN : タップまたは長押ししてボタンの組み合わせを確認します。

 : タップしてスティックとホイールをキャリブレーションします。

 : タップして最近開いたアプリを確認します。

 : タップまたは長押しして設定に移動します。

## 2 明るさの調整

バーをスライドして明るさを調整します。のアイコンは自動の明るさを示しています。このアイコンをタップするかバーをスライドすると、アイコンがに変わり 手動による明るさモードに切り替わります。

## 3 音量の調整

音量を調整するには、バーをスライドします。をタップしてミュートします。

## 4 ホームページ

 : タップするとホームページに戻ります。

## 5 お知らせ

 : タップするとシステム通知を確認できます。

- 
-  :
- SRE (Sunlight Readable Enhancement) 機能により、画像のハイライトやシャドウを個別に、またはまとめて強くすることができます。これは、太陽光が強いときにユーザーが画面の特定の領域をより明確に見るのに役立ちます。
  - クイック設定は、リンクした機体モデルとスマート送信機のファームウェアバージョンによって異なります。
- 

## DJI GO 4/DJI Pilot アプリ

DJI GO 4/DJI Pilot を開始するには、ホームページで「Go」をタップするか、ホームページのをタップし、それからDJI GO 4/DJI Pilotをタップします。DJI GO 4/DJI Pilotでは、飛行状況を確認したり、飛行とカメラのパラメーターを設定したりできます。スマート送信機は複数の機体モデルと互換性があり、DJI GO 4のインターフェースは機体モデルによって変更される可能性があるため、詳細については機体のユーザーマニュアルの「DJI GO 4/DJI Pilot アプリ」のセクションを参照してください。

# 付録

## 写真や動画の保存場所の変更

リンクした後は、DJI GO 4を使用して機体に写真や動画を保存するよう選択できます。ユーザーはDJI GO 4を使用して、写真と動画をスマート送信機に保存するか、スマート送信機のmicroSDカードに保存するかを選択できます。

### HD写真の自動同期：

送信機と機体の電源を入れ、送信機と機体がリンクされていることを確認します。DJI GO 4を起動し、カメラビューに進みます。☰ > ⚙ の順にタップし、「HD写真の自動同期」を有効にします。機体のmicroSDカードに画像が保存されると同時に、すべての画像が送信機のmicroSDカードに高解像度で保存されます。

### スマート送信機に保存：

送信機と機体の電源を入れ、送信機と機体がリンクされていることを確認します。DJI GO 4を起動し、カメラビューに進みます。... > ... の順にタップします。

写真や動画を送信機にキャッシュするには、「録画時にローカルにキャッシュする」を有効にします。

写真や動画を送信機のmicroSDカードに保存するには、「外部SDカードに映像をダウンロードする」を有効にします。

「外部SDカードに映像をダウンロードする」が有効になっている場合、再生中に画像を送信機にダウンロードすると、選択したすべての画像が送信機のmicroSDカードにダウンロードされます。

- 
- ⚠ • 「録画時にローカルにキャッシュする」および「外部SDカードに映像をダウンロードする」は初期状態では無効になっています。
- 「外部SDカードに映像をダウンロードする」を有効にするには、microSDカードが送信機に挿入されていることを確認してください。
- 

## コントロールスティックナビゲーション

設定でコントロールスティックナビゲーションをタップします。ユーザーはコントロールスティックと5Dボタンを有効または無効にして送信機を操作できます。送信機が機体にリンクされている場合は、事前に有効にしてもコントロールスティックナビゲーションは使用できません。

コントロールスティック：上下左右に動かして移動します。コントロールスティックで選択を確定することはできません。

5Dボタン：上下左右に押して移動します。押して選択を確定します。

- 
- ⚠ コントロールスティックと5Dボタンはサードパーティ製のアプリと互換性がない場合があるため、サードパーティ製のアプリを使用している場合は、タッチスクリーンを使用して移動することをお勧めします。
- 

## DJI GO Share (DJI GO 4を使用中にのみ利用可)

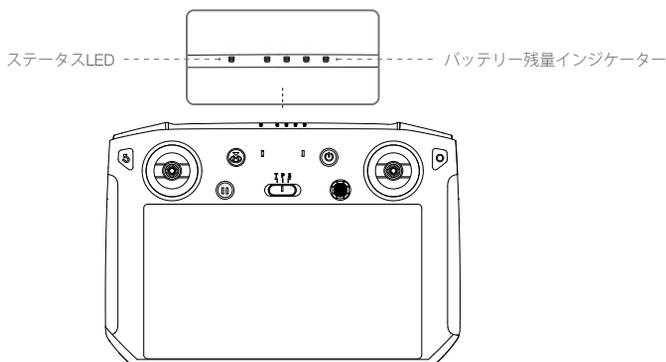
DJI GO 4からスマート送信機にダウンロードされた動画と画像は、他のスマートデバイスにワイヤレスで転送することができます。以下の手順に従ってDJI GO Shareを使用してください。

1. 送信機の電源を入れ、画面上部から下にスワイプしてクイック設定を開きます。☰ をタップすると、QRコードが表示されます。

2. スマートデバイスでDJI GO 4を実行し、DJI GO 4を使用してQRコードをスキャンします。
3. 送信機とスマートデバイスが正しく接続されるまで待ちます。接続後は、スマートデバイスの送信機にダウンロードされたすべての写真や動画を確認できます。
4. 共有したい写真や動画を選択して「ダウンロード」をタップし、スマートデバイスにダウンロードします。

⚠ DJI GO 4で再生中に送信機にダウンロードされた写真や動画のみ、DJI GO Shareを使用して共有できます。

## ステータスLEDとバッテリー残量インジケータの説明



バッテリー残量インジケータは送信機の電池残量を表示します。ステータスLEDは、リンクのステータスと、コントロールスティック、ローバッテリー残量、および高温に関する警告を表示します。

| ステータスLED | 説明                                 |
|----------|------------------------------------|
| 赤色に点灯    | 送信機は機体にリンクされていません。                 |
| 緑色に点灯    | 送信機は機体にリンクされています。                  |
| 青色に点滅    | 送信機は機体にリンクされています。                  |
| 赤色に点滅    | 送信機の温度が高すぎるか、機体のバッテリー残量が少なくなっています。 |
| 黄色に点滅    | 送信機のバッテリー残量が少なくなっています。             |
| 水色に点滅    | コントロールスティックが中央にありません。              |

| バッテリー残量インジケータ |   |   |   | バッテリー残量  |
|---------------|---|---|---|----------|
| ●             | ● | ● | ● | 75%~100% |
| ●             | ● | ● | ○ | 50%~75%  |
| ●             | ● | ○ | ○ | 25%~50%  |
| ●             | ○ | ○ | ○ | 0%~25%   |

## スマート送信機の警告音

ユーザーへの警告を必要とする特定の状況では、スマート送信機は振動やピープ音を鳴らして警告を發します。送信機のピープ音が鳴り、ステータスLEDが緑色に点灯している場合、このエラーは機体または飛行ステータスに関連している可能性があり、DJI GO 4/DJI Pilotで警告が表示されます。このエラーがスマート送信機に関連している場合は、送信機の画面に警告またはアラートが表示されます。

ピープ音を無効にするには、送信機の電源を入れ、設定で「サウンド」を選択し、「通知音量」をオフにします。

## システムの更新

### 方法1：ワイヤレス更新

更新中は、送信機がインターネットに接続されていることを確認してください。

1. 送信機の電源を入れます。ⓘと⚙️を順にタップします。ページの下部までスクロールして、「システム更新」をタップします。
2. 「更新の確認」をタップしてファームウェアを確認します。ファームウェア更新が利用できる場合、プロンプトが表示されます。
3. プロンプトに従って更新を終了します。
4. 更新が完了すると、送信機は自動的に再起動します。

### 方法2：DJI Assistant 2

1. 送信機の電源がオフになっていることを確認してから、USB 3.0 USB-Cケーブルを使用して送信機をパソコンに接続します。
2. 送信機の電源を入れます。
3. DJI Assistant 2を起動し、DJIアカウントを使用してログインします。
4. スマート送信機のアイコンをクリックしてから、「ファームウェア更新」をクリックします。
5. 更新するファームウェアのバージョンを選択して確定します。
6. DJI Assistant 2が自動的にファームウェアをダウンロードし、更新します。
7. 更新後、送信機は再起動します。

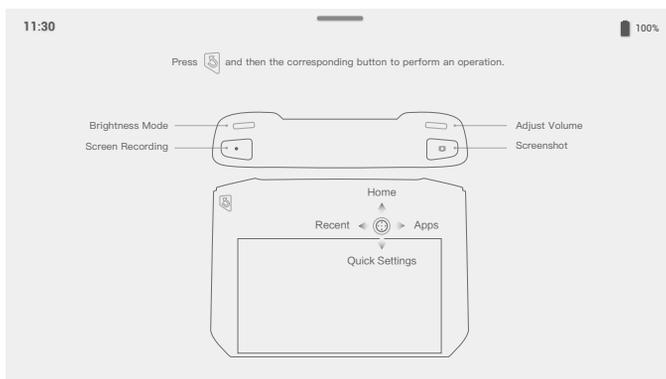
- 
- ⚠️
- 更新する前に、送信機のバッテリー残量が50%を超えていることを確認してください。
  - 更新中はUSB-Cケーブルを取り外さないでください。
  - 更新中は、送信機またはパソコンがインターネットに接続していることを確認してください。
  - 更新には約15分程度かかります。
- 

## ボタンの組合せ

ボタンの組合せを使用して、頻繁に使用する機能を有効化することができます。ボタンの組合せを使用するには、戻るボタンを押しながら、他のボタンを押します。

## 利用可能なボタンの組み合わせを確認する

送信機が振動してボタンの組み合わせを確認するまで、戻るボタンを押し続けます。



ボタンの組合せ

## ボタンの組合せの使用

ボタンの組み合わせの機能は変更できません。次の表は、各ボタンの組み合わせの機能を示しています。

| ボタンの組合せ              | 説明                            |
|----------------------|-------------------------------|
| 機能ボタン+右ホイール          | システムの音量を調整します                 |
| 機能ボタン+左ホイール          | 画面の明るさを調整します                  |
| 機能ボタン + 録画ボタン        | 設定でコントロールスティックナビゲーションをタップします。 |
| 機能ボタン+フォーカス/シャッターボタン | 画面のスクリーンショットを撮ります             |
| 機能ボタン+5Dボタン (上)      | ホームページに戻ります                   |
| 機能ボタン+5Dボタン (下)      | クイック設定を開きます                   |
| 機能ボタン+5Dボタン (左)      | 最近開いたアプリを確認します                |
| 機能ボタン+5Dボタン (右)      | アプリセンターを開きます                  |

## コンパスのキャリブレーション

送信機を電波干渉のある場所で使用した後は、コンパスのキャリブレーションが必要な場合があります。送信機のコンパスにキャリブレーションが必要な場合、警告メッセージが表示されます。警告メッセージをタップし、キャリブレーションを開始してください。それ以外の場合は、以下の手順に従い送信機のキャリブレーションを行います。

1. アプリセンターに移動して⚙️をタップし、下にスクロールしてコンパスをタップします。
2. 画面の図に従って、送信機のキャリブレーションを行います。
3. キャリブレーションが成功した場合、ユーザーはプロンプトを受信します。

## サードパーティからの通知のブロック

安全な飛行のために、各飛行の前にサードパーティからの通知を無効にすることをお勧めします。以下の手順に従って、サードパーティから通知を無効にしてください。

1. アプリセンターに移動して $\text{⚙}$ をタップし、下にスクロールして通知をタップします。
2. 「空撮中の通知拒否モード」を有効にします。

## HDMI

HDMIケーブルで送信機をモニターに接続することで、モニターに送信機の画面を表示できます。以下の手順に従ってHDMI接続を有効にしてください。

1. 画面上部から下にスワイプしてクイック設定を開きます。
2. 画面の $\text{ⓧ}$ に従って、送信機のキャリブレーションを行います。HDMIをタップしてHDMI接続を有効または無効にします。長押しして設定画面に移動し、HDMI解像度、回転、出力モード、および画面ズームを調整します。

## アフターサービス情報

アフターサービスおよび保証規定についての詳細情報は、<http://www.dji.com/support>でご確認いただけます。

# 仕様

| OcuSync 2.0               |  |
|---------------------------|--|
| 動作周波数帯                    | 2.400~2.4835 GHz、5.725~5.850 GHz*  |
| 最大伝送距離<br>(障害物、電波干渉のない場合) | 2.400~2.4835 GHz :<br>8 km (FCC)、4 km (CE)、4 km (SRRC)、<br>4 km (MIC (日本))<br>5.725~5.850 GHz :<br>8 km (FCC) : 2 km (CE) : 5 km (SRRC)  |
| トランスミッター出力 (EIRP)         | 2.400~2.4835 GHz :<br>25.5 dBm (FCC)、18.5 dBm (CE)、19 dBm<br>(SRRC)、18.5 dBm (MIC(日本))<br>5.725~5.850 GHz :<br>25.5 dBm (FCC)、12.5 dBm (CE)、18.5 dBm<br>(SRRC)   |
| Wi-Fi                     |  |
| プロトコル                     | Wi-Fi Direct、Wi-Fi Display、802.11a/g/n/ac<br>2x2 MIMO搭載のWi-Fiに対応   |
| 動作周波数帯                    | 2.400~2.4835 GHz、5.150~5.250 GHz*、<br>5.725~5.850 GHz*   |
| トランスミッター出力 (EIRP)         | 2.400~2.4835 GHz :<br>21.5 dBm (FCC)、18.5 dBm (CE)、<br>18.5 dBm (SRRC)、20.5 dBm (MIC (日本))<br>5.150~5.250 GHz :<br>19 dBm (FCC)、19 dBm (CE)、<br>19 dBm (SRRC)、19 dBm (MIC (日本))<br>5.725~5.850 GHz :<br>21 dBm (FCC)、13 dBm (CE)、21 dBm (SRRC) |
| Bluetooth                 |  |
| プロトコル                     | Bluetooth 4.2  |
| 動作周波数帯                    | 2.400~2.4835 GHz   |
| トランスミッター出力 (EIRP)         | 4 dBm (FCC)、4 dBm (CE)<br>4 dBm (SRRC)、4 dBm (MIC (日本))  |
| その他                       |  |
| バッテリー                     | 18650 Li-ion (5000 mAh @ 7.2V)   |
| 充電タイプ                     | 定格12V/2AのUSB電源アダプターに対応   |
| 定格出力                      | 15 W   |
| 保存容量                      | ROM : 16 GB + 拡張 (microSD**)   |
| 充電時間                      | 2時間 (定格12V/2AのUSB電源アダプター使用時)   |
| 駆動時間                      | 2.5時間  |
| 動画出力ポート                   | HDMIポート  |
| 電源電流/電圧 (USB-Aポート)        | 5 V/900 mA   |

|              |   |
|--------------|---|
| 動作環境温度       | -20℃～40℃  |
| 保管温度範囲       | 1ヶ月未満：-30℃～60℃<br>1～3ヶ月：-30℃～45℃<br>3ヶ月～6ヶ月：-30℃～35℃<br>6ヶ月超：-30℃～25℃   |
| 充電温度範囲       | 5℃～40℃  |
| 対応機体モデル***   | Mavic 2 Pro, Mavic 2 Zoom, Mavic 2 Enterprise, Mavic 2 Enterprise Dual, Phantom 4 Pro v2.0  |
| 推奨microSDカード | Sandisk Extreme 32GB UHS-3 microSDHC<br>Sandisk Extreme 64GB UHS-3 microSDXC<br>Panasonic 32GB UHS-3 microSDHC<br>Panasonic 64GB UHS-3 microSDXC<br>Samsung PRO 32GB UHS-3 microSDHC<br>Samsung PRO 64GB UHS-3 microSDXC<br>Samsung PRO 128GB UHS-3 microSDXC |
| GNSS         | GPS+GLONASS   |
| サイズ          | 177.5×121.3×40 mm<br>(アンテナ折りたたみ時、コントロールスティック未装着時)<br>177.5×181×60 mm<br>(アンテナ展開時、コントロールスティック装着時)  |
| 重量           | 約630 g  |

- \* 国によっては、現地の規制で5.8GHzと5.2GHzの周波数帯の使用を禁止しています(日本では、2.4GHzのみ利用可能。)が、屋内の使用に限り5.2GHzの周波数帯域を使用できる地域もあります。
- \*\* スマート送信機は、最大128GBの保存容量のmicroSDカードに対応します。
- \*\*\* スマート送信機は今後、より多くのDJI機体に対応する予定です。公式ウェブサイトで最新情報をご確認ください。

DJIサポート

<http://www.dji.com/support>

本内容は変更されることがあります。

**最新版は下記よりダウンロードしてください**

<http://www.dji.com/dji-smart-controller>

本書についてご質問がある場合は、DJI ([DocSupport@dji.com](mailto:DocSupport@dji.com))  
までメールでお問い合わせください。

© 2020 DJI All Rights Reserved.